

記者発表(資料配布)

月/日	担当課(室)係名	TEL(代表)	発表者名	資料配布先
6/29(木) 14:00	県立人と自然の博物館 生涯学習課	079 (559)2001	次長 田原 直樹 (安井 健二)	県教委記者クラブ 三田市政記者クラブ

開館25周年記念展示

「ひとはく研究員のいちおし25選 (夏の部)」の開催について

1 主旨

兵庫県立人と自然の博物館(ひとはく)は、今年度で25周年を迎えます。

動物や植物、化石など様々なテーマについて、ひとはく研究員が自らの研究分野の中から、開館25周年にちなんで25点を選んで展示します。

この開館25周年記念展示は、初夏・夏・秋・冬の4期に分けて実施します。

夏の部は、12の展示を行います。

2 記念展示名

- (1) 「植物の『〇〇でかお』って、どんなかお？」担当：小舘誓治、高橋晃(別紙1)
- (2) 「和田研究員が選ぶ兵庫のイカ・タコ類25選」担当：和田年史(別紙2)
- (3) 「フロアスタッフのおしごと25選」担当：上田雄一郎(別紙3)
- (4) 「これってアリ？橋本研究員が選ぶアリに化けるクモ写真25選」担当：橋本佳明(別紙4)
- (5) 「山内研究員が選ぶ衛生動物25選」担当：山内健生(別紙5)
- (6) 「高橋研究員が選ぶ花25選－美しい色と形」担当：高橋晃(別紙6)
- (7) 「高橋研究員が選ぶ木材組織25選－ミクロの美デザイン」担当：高橋晃(別紙7)
- (8) 「藤井研究員が選ぶ兵庫の水草25選」担当：藤井俊夫(別紙8)
- (9) 「藤井研究員が選ぶ兵庫の湿性カヤツリグサ25選」担当：藤井俊夫(別紙9)
- (10) 「藤井研究員が選ぶ兵庫の外来植物25選」担当：藤井俊夫(別紙10)
- (11) 「古谷研究員が選ぶ小さな化石が見つかった学校・児童館・幼稚園25選」
担当：古谷裕(別紙11)
- (12) 「こわい？かわいい？ひょうごの妖怪25選」担当：大平和弘(別紙12)

3 展示概要

- (1) 期間：平成29年7月15日(土)～平成29年9月10日(日)
- (2) 場所：兵庫県立人と自然の博物館 館内(別紙1～12参照)
- (3) 展示物：別紙1～12参照
- (4) 主催：兵庫県立人と自然の博物館

4 マスコミ向けプレビュー

- (1) 日時：平成29年7月14日(金) 午後3時～
- (2) 場所：兵庫県立人と自然の博物館 4階 実習室
* 担当研究員より展示の説明を行います。

5 問い合わせ

兵庫県立人と自然の博物館 生涯学習課
電話：079-559-2002

開館25周年記念展示「植物の『〇〇で かお』って、どんな かお？」

1 主旨

兵庫県立人と自然の博物館では、様々な生きものや自然の写真情報を収集しています。その中で、見方によっては何かの『かお』に見えるものがあります。それらを選んでみました。『かお』の各部分が何なのか、それぞれの部位について博物館の研究員が解説やコメントを入れて展示をします。この展示を通して、植物や自然に興味を持っていただくと幸いです。

2 展示概要

(1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 4階ひとはくサロン ギャラリー

(2) 展 示 物：写真パネルおよび解説

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部

コミュニケーション・デザイン研究グループ

研究員 小館誓治 kodate@hitohaku.jp、研究系次長 高橋 晃 takahasi@hitohaku.jp

4 主な展示物

- ・身近に見られる植物のいろんな部分の写真パネル
- ・写真を解説したパネル

身近な植物の色々な部分（幹、花、葉など）で『かお』に見えるものを展示。



『お酒によった？ かお』（ヤブツバキの花）
（「目」の部分は、ムシに食われた跡）



『こわ〜い かお』（アカマツの幹）
（「目」の部分は、枝が伐られた跡、
「鼻」の部分は、成長が悪く折れた枝の跡、
「口」の部分は、樹皮が傷ついた跡）

開館25周年記念展示「和田研究員が選ぶ兵庫のイカ・タコ類25選」

1 主旨

兵庫県には瀬戸内海側と日本海側で異なる環境の海域が広がっており、それぞれの環境に適応した様々な海洋生物が生息しています。兵庫県立人と自然の博物館の開館25周年の記念展示では、兵庫県近海で見られるイカ・タコ類（軟体動物門頭足綱に属する生物）25選を実物標本や生態写真とともに紹介します。兵庫県近海では50種類以上のイカ・タコ類が知られていますが、今回の企画展示では特に魅力的なイカ・タコ類を厳選してお見せしますので、ぜひご覧いただき、兵庫県近海の多様な海洋生物の魅力を感じていただけたらと思います。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 4階ひとはくサロン ギャラリー
- (2) 展 示 物：イカ・タコ標本25点（標本の大きさとスペースの関係で全身を展示できない種類もあります：ダイオウイカやミスダコなど）・生態写真・解説・論文など

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部
主任研究員 和田年史 wada@hitohaku.jp

4 主な展示物（標本）

・イカの仲間では、石灰質の硬い甲をもつコウイカやウデボソコウイカ、生時に美しい体色を見せるハナイカ、世界最小の頭足類と言われるヒメイカ、レジャーフィッシングの対象としても人気が高いアオリイカやケンサキイカ、発光するイカとしてよく知られているホタルイカ、中層・深海性で謎の多いユウレイイカなどを紹介します。

・タコの仲間は、明石ダコのブランド名もあるマダコ、タコ壺漁で古くから文化的にも親しまれているイイダコ、長い腕が特徴のテナガダコ、猛毒のテトロドトキシン（フグ毒）をもつヒョウモンダコ、美しい貝殻の中に入って遊泳するアオイガイやタコブネなどです。



展示予定のイカ・タコ標本

開館25周年記念展示「フロアスタッフのおしごと25選」

1 主旨

フロアスタッフは、県立人と自然の博物館で、来館するお客様の出迎えや観覧券もぎりという接客部門を担当するだけでなく、毎日の展示解説やデジタル紙芝居等のイベントを、フロアスタッフ独自の企画・立案で行ったり、お客様にきめ細やかな心遣いや笑顔いっぱいであたりししながら、お客様とひとはくをつなぐ大きな役割を担っています。

今回の「フロアスタッフのおしごと25選」と題した展示を通し、接客をはじめ多岐にわたる仕事内容や実施数、実際にイベントで作った作品等を知ってもらえたらと思っています。

現在のフロアスタッフの前身であるミュージアムメイト時代からひとはくを知っている方を含め、お客様をはじめ地域の皆様や、ひとはくに関わっている方々にフロアスタッフの仕事を知っていただいたうえで、助言や指導をいただきながら、さらに精進していこうと思っています。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 4階ひとはくサロン ギャラリー
- (2) 展 示 物：パネル、イベントで作った作品

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 生涯学習課 指導主事 上田雄一郎 yueda@hitohaku.jp



フロアスタッフ

開館25周年記念展示

「これってアリ？橋本研究員が選ぶアリに化けるクモ写真25選」

1 主旨

ひとはく開館25周年記念の特別企画「ひとはく研究員のいちおし25選」として、私のアリに化けるクモのコレクションを本邦初で紹介したいと思います。このクモはハエトリグモのなかまで、アリに擬態しているのでアリグモと呼ばれています。アリグモは日本全土で5種ほどいますが、熱帯の森に行くと、一つの森から40種を超えるアリグモを見つけることができます。さらに、日本のアリグモは黒くて同じような形をしていますが、熱帯の森では、まるで針金のように細長いものや、金色の体毛を生やしているものなど、いろいろなアリグモが見つかります。どうして、熱帯の森ではアリグモは多種多様になるのでしょうか。これが、今、私が研究で解き明かそうとしている謎です。

残念ながらクモの体は軟弱で、アルコールに浸かった標本でしか保存できません。このため、その形や色が失われてしまいます。そこで、私が撮影した生体写真を使って、アリグモの見事な化けっぷりを展示します。熱帯の森で繰り広げられるクモたちのアリ仮装大会を見に、博物館へおいでください。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 3階オープンギャラリー
 (2) 展 示 物：パネル25点、解説パネル

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部
 主任研究員 橋本佳明 yoshiaki@hitohaku.jp



ボルネオ島の森で見つけたアリに化けるクモたち。一匹だけアリが混じっていますが、どれか分かりますか？（答えは、上から3段目の右から2列目です）

開館 25 周年記念展示「山内研究員が選ぶ衛生動物 25 選」

1 主旨

衛生動物は、人の健康に害を及ぼす有害な動物です。人の血を吸うアブ類やトコジラミ、血を吸って病気（感染症）まで媒介する蚊類やダニ類、毒を持つスズメバチ類やムカデ類、さらには人に不快感をもたらす動物も含まれます。近年、我が国では、重症熱性血小板減少症候群（略して SFTS）という病気を媒介するマダニ類やデング熱（東南アジアなどで流行している病気）を媒介する蚊類が注目を集め、マスコミでも頻繁に取り上げられました。ですが、こうした衛生動物の実物標本をご覧になったことのある方は少ないと思います。

当館は今年で開館 25 周年を迎えました。そこで、この数字にちなみ、当館に収蔵されている衛生動物 25 種類の標本を選び、その危険性やエピソードを交えて紹介します。この機会に衛生動物がどのような姿かたちをしているのかを知っていただき、被害の予防に役立てていただけたらと思います。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 2階ひとはく多様性フロア
- (2) 展 示 物：標本 25 点および解説
- (3) 協 力：国立感染症研究所 水田英生（元神戸検疫所）

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部
主任研究員 山内健生 yamauchi@hitohaku.jp

4 主な展示物

日本、アフリカ、南アメリカで採集された衛生動物の標本（マダニ類、蚊類、アブ類、ツエツエバエ類、メマトイ類、スズメバチ類、蛾類、トコジラミ、アオバアリガタハネカクシ、アオカミキリモドキ、ブラジルサシガメなど）



タカサゴキラマダニ



アカウシア

開館 25 周年記念展示「高橋研究員が選ぶ花 25 選—美しい色と形」

1 主旨

兵庫県には 2,500 種以上の“花を咲かせる植物”があることが知られています。それらの花の形や色は、種によって実にさまざまで、その多様さには驚かされます。今回、それらの中から美しい形や色の花を選び、正方形に切り取りとった写真を敷き詰めたパネルを展示します。また同じ花の写真をデジタル画像としてモニターに映します。

このように花だけを切りとって展示することにより、花そのものがもつ色や形の妙を感じていただければと思います。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 2階ひとはく多様性フロア
 (2) 展示物：写真パネル4枚、モニター1台

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部
 コミュニケーション・デザイン研究グループ 高橋 晃 takahasi@hitohaku.jp

4 主な展示物

- ・花のパネル（50 cm×50 cm=25 種の花）×4 枚 （合計 100 種）
- ・デジタル画像（同じ 100 種の花をデジタル写真としてモニターで常時放映）



花の種名

- （上段左から）ウマノアシガタ、オオイヌノフグリ、カワラナデシコ
 （中段左から）シャガ、ハマボッス、キキョウ、
 （下段左から）ノアザミ、ジシバリ、トウダイグサ

開館 25 周年記念展示

「高橋研究員が選ぶ木材組織 25 選—ミクロの美デザイン」

1 主旨

木材は、道管や繊維などの微細な細胞が複雑に組み合わせられてできています。その細胞の種類や割合や配列の仕方によって、木材組織は植物の種（あるいは属）ごとに特有のパターンを示します。この独特な木材の内部構造を知るためには、木材の横断面・放射縦断面・接線縦断面の3面から構成細胞の成り立ちを見る必要があります。

ここでは木材組織のデザインが特に美しい 25 種を選び、木材組織 3 断面の顕微鏡写真を、写真パネルと手に取って見られる写真シートにして展示します。ふだん決して見ることのない木材組織内部の、驚きの美デザインを見てもらいたいと思います。

2 展示概要

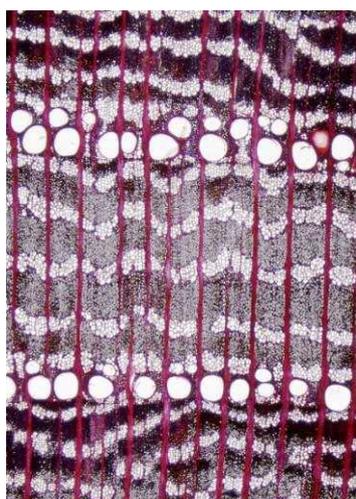
- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 2階ひとはく多様性フロア
- (2) 展 示 物：写真パネル 4 枚、写真シート 75 枚、透写台 1 台

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部
コミュニケーション・デザイン研究グループ 高橋 晃 takahasi@hitohaku.jp

4 主な展示物

木材組織の顕微鏡写真 合計 A 4 サイズ=32 枚（横断面=25 種、縦断面=7 種）



ケヤキの木材（横断面）



コナラの木材（横断面）



キリの木材（横断面）

開館25周年記念展示「藤井研究員が選ぶ兵庫の水草25選」

1 主旨

兵庫県立人と自然の博物館は、開館から25年になります。開館当時から兵庫県の自然環境の調査などを続けてきましたが、25年間で兵庫県内の自然環境が大きく変貌してきました。

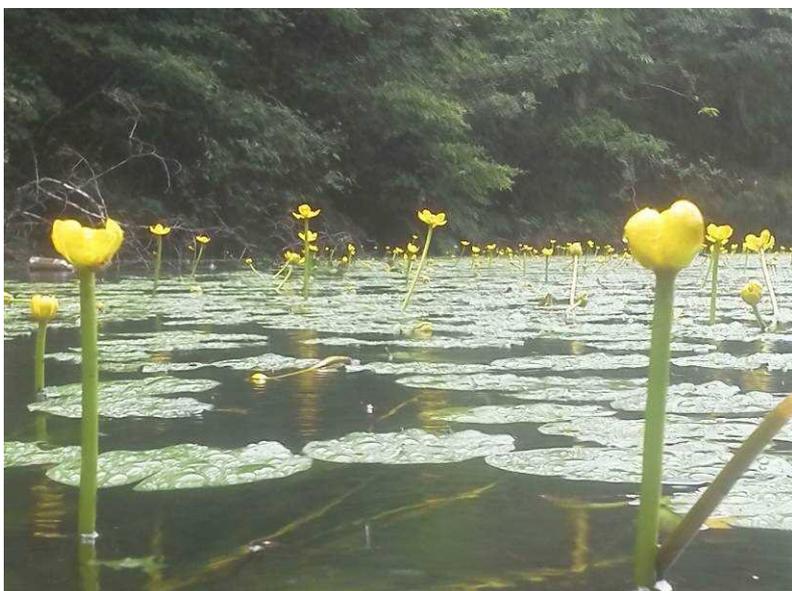
兵庫県内で見られた広い意味での水草の中から、花が美しく園芸的に利用されるものや、水辺環境の開発により絶滅が危惧される植物など、野外調査で印象に残った25種を選び、紹介します。水草の生育環境や、絶滅に直面する問題など、水草に対する理解が少しでも深まることを願っています。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 2階ひとはく多様性フロア
- (2) 展 示 物：パネル1枚

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部
主任研究員 藤井俊夫 fujii@hitohaku.jp



オグラコウホネ
(兵庫レッドデータブック：Bランク)



カキツバタ
(兵庫レッドデータブック：Bランク)

開館25周年記念展示「藤井研究員が選ぶ兵庫の湿生カヤツリグサ25選」

1 主旨

兵庫県立人と自然の博物館は、開館から25年になります。開館当時から兵庫県の自然環境の調査などを続けてきましたが、25年間で兵庫県内の自然環境が大きく変貌してきました。

兵庫県内で見られた広い意味での水辺に生育するカヤツリグサの仲間から、果実が目立つ植物、水辺環境の開発により絶滅が危惧される植物など、野外調査で印象に残った25種を選び、紹介します。目立たないカヤツリグサ科の生育環境や、絶滅に直面する問題など、湿地環境に対する理解が少しでも深まることを願っています。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 2階ひとはく多様性フロア
- (2) 展 示 物：パネル1枚

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部
主任研究員 藤井俊夫 fujii@hitohaku.jp



ミカヅキグサ生育環境
(兵庫レッドデータブック：Cランク)



ヤチカワズスゲ果実

開館25周年記念展示「藤井研究員が選ぶ兵庫の外来植物25選」

1 主旨

兵庫県立人と自然の博物館は、開館から25年になります。開館当時から兵庫県の自然環境の調査などを続けてきましたが、25年間で兵庫県内の自然環境が大きく変貌してきました。

兵庫県内で見られた外来植物の中から、すでに定着した外来種、最近拡大しつつある外来種、在来の植物との競合が心配される外来種など、野外調査で印象に残った25種を選び、紹介します。外来種問題について考えるきっかけとなることを願っています。

2 展示概要

(1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 2階ひとはく多様性フロア

(2) 展 示 物：パネル1枚

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部

主任研究員 藤井俊夫 fujii@hitohaku.jp



オオバナミズキンバイ (特定外来生物に指定)



ホテイアオイ (要注意外来生物に指定)

開館25周年記念展示

「古谷研究員が選ぶ小さな化石が見つかった学校・児童館・幼稚園25選」

1 主旨

兵庫県立人と自然の博物館は、アウトリーチ事業の一つとして、移動博物館車「ゆめはく」で当館への来館が困難と思われる地域や規模の学校等を中心に、昆虫や化石を中心とした展示や、むしむしみつけ等のイベント、さらには、研究員による出前授業を行うキャラバン活動をしています。当館の多くの研究員は、この活動に関わる以外に、サイエンス・トライやる事業をはじめ講師派遣依頼にも対応しています。

古谷研究員は、これまで兵庫県内外の数多くの学校・児童館・幼稚園等に対するキャラバン、特注セミナー、館外への講師派遣等で、学校やその周辺に転がる石ころの中から放散虫などの小さな化石を抽出し、紹介してきました。今回の展示ではそれらのうちから25プラスαの学校等を選んで紹介します。併せて、子どもたちに小さな生き物たちとの出会いを心に残してもらうための取り組みも紹介します。

この展示を通じて、私たちの身の回りには太古の海で生きていた小さな生き物たちの化石を含んだ石が多数転がっていること、時間的にも空間的にも遠く隔たった小さな生き物たちとの出会いの面白さをご理解いただければと思います。

2 展示概要

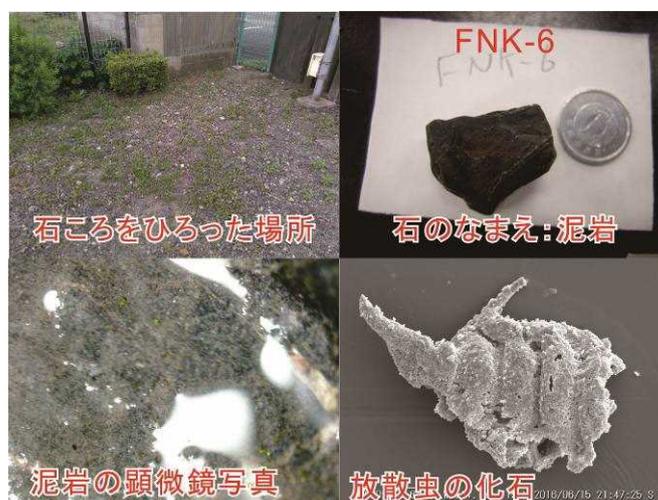
- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 2階ひとはく多様性フロア
- (2) 展 示 物：パネル約30点、化石が抽出された石、石から抽出された化石など

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部
主任研究員 古谷 裕 furutani@hitohaku.jp

4 主な展示物

- ・施設ごとに、化石が含まれていた石や抽出された化石を紹介したパネル
- ・小さな化石を含む石、小さな化石
- ・キャラバン等での小さな化石を使ったワークショップの実施例（パネルや制作物）



施設で見つかった場所と石、放散虫化石

開館25周年記念展示「こわい？かわいい？？ ひょうごの妖怪25選」

1 主旨

兵庫県には、五国の豊かな自然環境や多様な風土・文化に恵まれ、多くの妖怪伝承が生まれ出され、語り継がれています。古い文献を調べると、実に100種類以上の妖怪を見つけることができました。人と自然の博物館では、人と自然の共生文化として重要なこれらの妖怪伝承について、少しずつ記録しています。

今回の展示会では、当館が25周年を迎えることから、兵庫県内に出没した25種類の妖怪を選び、出没した自然環境や場所、妖怪の特徴を説明したパネルを、常設展示の内容に対応して館内随所に配置します。

2 展示概要

- (1) 場 所：兵庫県立人と自然の博物館 4階ひとくサロン、3階展示室 ほか
- (2) 展 示 物：イラスト付解説パネル25点

3 担当

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部
研究員 大平 和弘 ohira@hitohaku.jp

4 関連講座

- ・講座名：妖怪の絵をみてみよう！
- ・日 時：平成29年7月30日（日）13：00～14：00
- ・場 所：兵庫県立人と自然の博物館 4階ひとくサロン
当日受付、無料
- ・内 容：博物館に収蔵されている古い妖怪の絵図を特別公開し、解説します。



大入道やカッパなどの妖怪たちが、出没した場所や環境がイラストとともに紹介される。